15 右図（血溜まり発生位置2）の血溜まりI、J、K、Lを吸引（血溜まり→P24）

16 右図（血溜まり発生位置2）の血溜まりM、Nを吸引し、弾を回収後に再度血溜まりを吸引する（散弾除去→P28）

17 追加トレイの人工膜を弾痕に乗せて定着させる（弾痕処置→P28）

18 16、17の手順で右図（血溜まり発生位置2）の血溜まりOを処置（散弾除去→P28）

19 バイタルを回復しておき、右図（血溜まり発生位置2）の血溜まりPを吸引して弾痕を切開（ライフル弾摘出→P28）

20 弾痕の血溜まりを吸引し、ライフル弾の一部を摘出（ライフル弾摘出→P28）

21 血溜まりを吸引し、弾痕をさらに切開して再度血溜まりを吸引する（ライフル弾摘出→P28）

22 ライフル弾の破片を摘出し、弾痕の血溜まりを吸引（ライフル弾摘出→P28）

23 追加トレイの人工膜を弾痕に乗せて定着させる（弾痕処置→P28）

24 術野を下に移動させ、16、17の手順で右上の血溜まりを処置（散弾摘出→P28）

25 83ページの11、12の手順で左下の血溜まりを処置（散弾摘出→P28）

26 腹部の閉創処置を行なう（閉創→P25）

27 **3人目の患者**
血溜まり×5を吸引し、裂傷×3を縫合（血溜まり→P24、裂傷→P23）

28 カラス片×3を除去し、ガラス片の傷口×3と切り傷×2を治療（異物除去→P25、切り傷→P23）

29 胸部の消毒を行ない　バイタルを回復して切開（切開→P24、バイタル回復→P23）

30 大裂傷の血溜まりを吸引し、傷口を閉じて縫合（大裂傷→P29）

31 30の手順で大裂傷を処置し、裂傷×2を縫合（大裂傷→P29、裂傷→P23）

32 ガラス片×2を回収し、傷口×2と出血×3を治療する（異物除去→P25、出血→P24）

33 術野を下に下げて出血×3を治療（出血→P24）

34 術野を少し下に移動させ　大裂傷の血溜まりを吸引して傷口を閉じて縫合（大裂傷→P29）

■ 血溜まり発生位置2

左図の記号は、チャート表の番号と対応しており、MとNの血溜まりの下には散弾が、Oの下には弾痕が、Pの下にはライフル弾が埋まっている。

15－1
血溜まりを全部吸引すると、散弾除去や弾痕処置に時間が掛かり、血溜まりの再発が起きる可能性がある。

15　2
近くにある同じ症状の血溜まりを吸引して　患部をまとめて処置して進めたほうが、処置がラクで時間も掛からない。

19
ライフル弾の摘出は散弾より少し難しい。処置をスタートするまえに、バイタルを45以上に回復させてから挑戦したい。

28
ガラス片の回収はミスしやすい。ガラス片は傷口に対して垂直に引き抜く必要がある。慎重に行なおう。

29
切り傷を治療するとガイドラインが表示されるので、表示まえから腹部にもヒールゼリーを塗るようにしよう。

32
出血はガラス片の傷口を治療するとすぐに発生する。術野を移動させるまえに、この出血を治療しておきたい。

35 裂傷×5を縫合し、ガラス片×4を回収して傷口×4を治療（裂傷→P23、異物除去→P25）

36 術野を肺の中央まで移動させ　バイタルを回復（バイタル回復→P23）

37 内出血×3の位置を特定して切開（内出血→P29）

38 内出血の血溜まり×3を吸引し、切開口×3を縫合（内出血→P29）

39 術野を上に移動させ　バイタルを回復（バイタル回復→P23）

40 37、38の手順で内出血×2を処置（内出血→P29）

41 胸部の閉創処置を行なう（閉創→P25）

42 **4人目**
血溜まり×3を吸引し、裂傷を縫合（血溜まり→P24、裂傷→P23）

43 切り傷を治療しつつ、腹部の消毒を行ない切開（切り傷→P23、切開→P24）

44 出血×2を治療し、裂傷×3を縫合（出血→P24、裂傷→P23）

45 右図（骨片の配置）の骨片イを回収し、傷口を治療（異物除去→P25）

46 右図（骨片の配置）の骨片ロを回収し、発生した血溜まりを吸引して裂傷を縫合する（異物除去→P25、血溜まり→P24、裂傷→P23）

47 発生した出血と骨片の傷口を治療（出血→P24、異物除去→P25）

48 右図（骨片の配置）の骨片ハを回収し、46、47の手順で傷を治療する（異物除去→P25）

49 右図（骨片の配置）の骨片ニを回収し、大裂傷の血溜まりを吸引して閉じた傷口を縫合（異物除去→P25、大裂傷→P29）

50 発生した出血と骨片の傷口をまとめて治療（出血→P23、異物除去→P25）

51 右図（骨片の配置）の骨片ホを回収し、発生した血溜まり×3を吸引（異物除去→P25）

52 裂傷×2を縫合し、出血と骨片の傷口を治療（裂傷→P23、出血→P23、異物除去→P25）

53 右図（骨片の配置）の骨片ヘを回収し、傷口を治療（異物除去→P25）

54 追加トレイの骨片を右図（骨片の配置）を参照して設置（骨折処置→P26）

37－1
3つの内出血の場所はここ。ただし、内出血の処置を進めるまえにバイタルを40付近まで回復しておくこと。

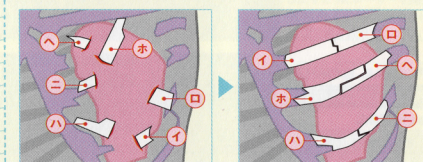
37　2
内出血の場所を特定したあと、3つの内出血を1本の線で繋げるようにメスを入れて、まとめて切開しよう。

40
残り2つの内出血は肺の上側にある。事前にバイタルを回復させておき、これまでと同じ手順で処置していこう。

42
残り時間があれば4人目以降の手術が可能。5人全員の手術に挑戦したいのなら、86ページを参照しよう。

43
切開まえにバイタルを回復。切開後は骨片の回収で回復する時間はないので、60前後まで回復しておきたい。

45
骨片を回収するごとに傷が発生する。一気に骨片を回収すると大変な状況になるため、手順どおりに進めること。

■ 骨片の配置

左図のイ～ヘの異物が脾臓に刺さった骨片。回収した骨片の向きを修正して右図の同記号の位置に配置する必要がある。